

千葉・横芝光町に新施設

官署自由化見据え

朝日森運輸

朝日森運輸(千葉県成田市、竹蓋雅幸社長)は年明けの本格稼働を目指し、千葉県山武郡横芝光町に「成田南部物流センター」を建設している。今年10月に予定される輸出入申告官署の自由化を見据えたもので、保税蔵置場の許可取得を予定する。同地域は横浜税関の管轄だが、新制度を利用することで、AEO制度の認定通関業者(AEO通関業者)は同センターから東京税関成田航空貨物出張所などに申告し、成田空港からの航空輸出が可能になる。同センターでは、近隣に物流拠点を持つ大手半導体製造装置メーカーの取り扱いが決定しており、保税保管、梱包などの業務を提供。荷主の拠点に近い保管場所から直接成田空港に搬入できることでタメーシリスク低減やリードタイム短縮を図る。

横浜税関管内から成田申告



建設中の成田南部物流センター

高機能倉庫で半導体製造装置扱う

新センターは3月初めに着工した。規模は敷地面積

1万3500平方メートル。2階建てで、倉庫部分の延べ床面積は6800平方メートル。また、トラック搬出口に900平方メートルの大型ひさしを整

備する。精密機械の取り扱いに対応し、高品質な業務が提供できる設計とした。3年前に開設した成田東部物流センター同様、搬入

車両が倉庫内部まで進入でき、天候の影響を全く受けない取り降ろし作業が可能だ。5メートルの天井クレーン、6メートルの計量機、テーブル

リフターを設置するほか、7トフォーク2台、13トフォーク1台を導入する。梱包業務としては、全天候型の施設を最大限利用し、木箱梱包で月間7000〜1万M3の取り扱いを想定している。

1階部分は半導体製造装置メーカーの取り扱いに利用するが、2階部分は全エリア空調倉庫とし、精密機械やパーツなどの取り扱い拡大を目指す。

同センター建設は数年前から計画があったという。施設建設予定地では倉庫を賃貸して倉庫業務を手掛けていたが、従来サービスを提供する半導体製造装置メーカーの業務が拡大していることや、同社の取り扱い拡大が見込まれることから、土地を購入し、新施設の建設を決定した。

現在、同荷主の航空輸出は朝日森運輸の成田東部物流センター(以下、成田東センター)やフォワーターの保税上屋で保税蔵置、梱包を手掛けており、横持ちの手間が発生している。新センター開設により、輸送回数を減らし、タメーシなど事故リスクを削減する。

同メーカーの輸出フォワードینگ、通関はフォワーター数社が行うが、航空会社上屋までの保税輸送は朝日森運輸などが提供する。同センターから成田空港の貨物地区までは車で15分程度とアクセスにも優れる。

同センターに搬入される半導体製造装置のうち、7割が成田からの航空輸送だが、3割は海上輸送になるという。東京港までのアクセスも、銚子連絡道路と圏央道の松尾横芝インターチェンジから、アクアラインを経由して1時間程度と、海上輸送にも利便性のある拠点となる。また今後予定される圏央道の開通も、半導体製造装置メーカーの生産工場が東北エリアにあるため、さらなるアクセス向上も期待されるという。

成田東センターの稼働も好調。温度管理保管のニーズが増加しており、昨年には新たに冷蔵庫を増設。現在は、冷蔵庫1基(60坪)、冷蔵庫3基(80坪2基、60坪1基)、定温庫2基(67坪1基、60坪1基)の他、リーファーコンテナ1基で保税保管のニーズに添えている。同センターでは入庫業務

から顧客への請求までを一貫した最新システムの導入も控える。同システムでは、レーザーでの自動検尺・計量が可能。大型・重量貨物の検尺・計量が効率化される。データは作業スタッフの端末に送信され、端末では画像を撮影し、タメーシがあった際などに、検尺・計量結果とともに、顧客に送付することができる。また、入庫ナンバーと作業をひと付け、請求作業までを一括で行う事ができるという。6月末に導入開始を予定している。